

## 優雅なワシたちのほぼたきに魅了された！

ふるさと講座・自然系(第4回目)

## オジロワシ・オオワシ観察会の様子

2月16日(土)風蓮湖にて冬期間に飛来する代表的な渡鳥、オジロワシ・オオワシ(天然記念物)の観察会が開催されました。郷土資料館にて講師の町郷土研究会長 渡辺昇氏より風蓮湖とワシたちの関係のお話しを聞き、風蓮湖へ向かいました。曇り空で肌寒い日でしたが、ワシたちの雄大な姿は、参加者の目を釘付けにし、別海町の大いなる自然にふれた1日となりました。



### 一口メモー越冬するワシの数

昨年2月の環境省の調査によると、道内ではオオワシ(以下A)が1857羽、オジロワシ(以下B)が900羽確認されているそうです。その内、釧路・根室・網走でAが1413羽、Bは411羽で北海道に飛来するワシの半数は道東地方で越冬するようです。また、スケソウ漁が盛んだった1990年代には、ほとんどが知床半島に集中していたとされましたが、今回の調査で、Aは風蓮湖を中心とした根室地方で700羽、知床の羅臼町で170羽。Bも140羽、127羽と風蓮湖に集中していることが判明したそうです。スケソウ漁の不振により餌が不足し、風蓮湖で行われている氷下待ち網漁で放置される雑魚に集まっている可能性があるそうです。このように風蓮湖は、現在日本最大のワシたちの越冬地となっています。

## 写真展「思い出の西別」のパネル展示

町郷土研究会収蔵写真研究グループ(代表大堀清勝氏)から、昨年11月に町内で、開催した写真展「思い出の西別」のパネルを寄贈いただきました。その内24点をこの度、第2展示室に展示しました。写真展を見逃した方、興味のある方、是非ご来館いただきたいと思ひます。



# 史料「日記 ノツケ 伝蔵」

～根室場所のアイヌを天然痘から救った貴重な記録からⅡ～



## 桑田一門、江戸から箱館へ向かう！

### ①蝦夷地（北海道）へ派遣された桑田立斎（くわた・りゅうさい）

箱館奉行の村垣淡路守は、安政3年(1856)12月に蝦夷地を巡回し「土人」（安政3年からアイヌを「土人」と呼称する）たちが疱瘡（ほうそう）＝天然痘にかかっている実情を知り、ただちに対策を協議しました。翌年の2月に幕府に医師の派遣を要請し、3月初めに「蝦夷地派遣種痘医の募集」が行われ、江戸の医師桑田立斎と箱館出身の深瀬洋春が派遣されることになりました。

### ②江戸を出発

桑田立斎は、弟子3人（西村文石・井上元長・秋山玄潭）、若者4人、種痘児1人と父母（種痘に使用する痘苗（ワクチン）は「かさぶた」と「活漿」（かっしょう-汁状のもの）があり、道すがら幼児に接種（植え継ぐ）し、その内から良痘児を選んで次駅に伴うという駅伝方法をとって、目的地に活漿を運んだ。）長持駕4人、長持1棹、馬3頭、人足3人、痘児駕などと、5月30日に妻や3人の娘、門人たちの見送るなか江戸を出発しました。

奥州街道を北上し、古河(茨城県)～宇都宮(栃木県)～白河(福島県)（江戸から195Km）、ここで新に雇い入れた子ども（7、8人）へ接種し、仙台に着いたのは閏5月半ば頃であった。ここでも7、8人の子どもへ接種し、松島・塩釜(宮城県)で休養した後、盛岡で接種し、南部藩の協力を得て、三戸(以下青森県)・五戸・伝法寺・七戸・陸奥湾の野辺地から田名部に着きここで接種し、恐山地蔵に参拝し途中温泉に入り、山越えて佐井港に到着しました。

### ③津軽海峡を渡り、箱館で奉行と会う

閏5月28日早朝、一行は船で箱館港へ向かいます。「船に積んであった荷物などがひっくりかえったりして、恐ろしい思いであった。」と「立斎年表」に書かれています。翌日には箱館奉行所で村垣淡路守に会い、到着の挨拶をしています。江戸を発ってから1か月も経っていました。村垣は「西蝦夷地の方を接種するように」と言いましたが、立斎は「国後に関谷順之助（義兄）が勤めているので、会わずに帰ったのでは、江戸のいるご両親に申し訳けないので、東蝦夷地を廻りたい」と言いました。箱館奉行所では既に「深瀬洋春に東蝦夷地へ行かせるよう、各場所へ通達済」でありましたが、村垣淡路守の決断により「東蝦夷地のヤムクシナイよりその先アツケシ・子モロ（根室）・クナシリ辺りまで」と変更されました。

江戸から1か月かかり蝦夷地へ到着し、いよいよ種痘活動に入ります。今回は箱館から子モロ（根室）までを紹介します。

#### ●参考・引用文献

「桑田立斎先生」二宮陸雄 1998

**郷土資料館のお知らせ（3月）**

- **休館日** 1日・2日・10日・15日・16日  
20日・24日・29日・30日
- **開館時間**  
午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- **観覧料**  
一般個人 300円 一般団体（10名以上）240円  
高校生以下は無料となります。

別海町郷土資料館だより No.104  
発行日 平成20年3月1日  
発行所 別海町郷土資料館  
別海町別海宮舞町30番地  
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)  
e-mail kyoudo@betsukai.jp

**編集後記** 記録を調べてみるとワシの観察会を実施して、もう13年になるようです。漁業者の方は当然知っていたと思われませんが、初めて見た時は雑魚に集まる異様な光景に違和感を感じつつ、上昇気流に乗り飛翔するワシが「ワシ柱」を作った時の壮大な姿を今でも忘れることは出来ません。（石渡）